

トルコ為替週報

2022 年 3 月 8 日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去 1 週間の動き＞

(3 月 1 日～3 月 7 日)

USD/TRY: 13.8600～14.4215

TRY/JPY: 7.98～8.28 (参照値)

過去 1 週間のトルコ・リラ相場は、対ドル、対円で、予想以上に一方的な下落。ただし、対ユーロでは概ね横ばい(気持ち軟調ぐらい)に終始したので、対ドル、対円で下落も、ドル高、円高の色彩の方が強かった。ドル高、円高の背景は、引き続きウクライナにおける戦争を嫌気した有事のドル買い、リスク回避の円買いと言えた。それは、そのまま、ウクライナからの地理的/経済的距離の遠さを反映した値動きと言うこともできただろう。ウクライナ情勢を理由にリラが売られた理由を敢えて挙げるとしたら、①燃料/食料価格高騰による物価上昇=実質所得低下=景気減速という経路への警戒 ②NATO 加盟国として対ロ制裁に与するか、ロシアとの(シリアなどにおける)微妙な均衡を維持するために西側諸国と距離を置くかの難しい政治判断を迫られている点 ③仮に足元リラ安基調が今後も定着した場合、為替差損補填リラ預金に対する実際の補填が発動し、トルコ財政に下振れ圧力が加わる可能性などが考えられただろう。3 日発表されたトルコ 2 月 CPI が市場予想を上振れたことは、①の目線でリラ売り要因と読むこともできたはずだが、物価動向がそもそもトルコ中銀金融政策に及ぼす影響が低い(皆無でなければ)こと、統計そのものに対する信頼感が低いこと、分母が大きいこと(注 1)、金融市場の関心がウクライナ情勢に大きく傾倒しており、トルコ経済/金融政策動向などに対する関心が薄れていたことなどを理由に、リラはほとんど反応を示さなかった。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/3	7:00	CPI(前年比)	2 月	+54.44%	+52.50%	+48.69%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(3 月 8 日～3 月 14 日)

USD/TRY: 14.150～14.650

TRY/JPY: 7.90～8.15

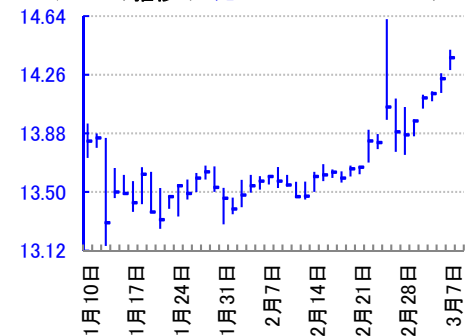
向こう 1 週間のトルコ・リラ相場は、軟調推移継続を予想。仮に値幅が出るとしたら、リラ底割れ方向を警戒する。本格開戦から本日(7 日)で 12 日目、大方の見通しに反し、ウクライナ軍は予想以上の抵抗を続けているように見える。こうした展開はプーチン大統領にとっても想定外であった可能性が高いが、「ウクライナ親口政権樹立」「非武装化(NATO 加盟阻止)」といった戦争遂行の目的を、ロシア側が早晚取り下げる展開は考え難い。西側の積極的な武器供与の結果、ウクライナ軍が早期に壊滅する可能性も低減しているし、当初見込み以上に厳しい西側対ロ制裁がロシアの体制変化を促す可能性も、短期的には期待薄だろう。つまり、現時点では、ウクライナにおける紛争が早期に収束するための道筋すら描けない。そのことはそのまま、上述①～③のリラ売り圧力が解消する目途が立たないことを意味するはず。また、EU は対ロ制裁、移民受け入れ、武器供与、経済支援などに関し、今般、内外で(注 2)見事な協調を見せているが、既に、ロシア産ガスの輸入方針などで不協和音が聞こえ始めている。紛争が長引けば長引くほど、こうした足並みの乱れ(移民受け入れに対する寛容な姿勢が変化する可能性も現実的に考えられよう)がロシアに付け入る隙を与え、ますます紛争が長期化する可能性も警戒される。リラ底割れを警戒するのは、とりわけ③の現実味が高まることを警戒するから。為替差損補填リラ預金の為替基準値となるトルコ中銀ドル/リラ公示売値は 1 月中旬に 13 台半ばを中心に推移したが、7 日の同売値(14.3270)は、トルコ国営銀による実質的リラ買い介入の甲斐もなく、戦争が始まった 21 日の同値(13.6369)から、僅か 10 営業日で-4.8%もリラ安に振れている。補填が始まる-14%までは、まだまだ距離があるようにも見えるものの、仮に、これが-8%、-12%と進んだ時に、市場がどのような反応を示すか、大いに懸念されるのではないかな。

＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
3/10	7:00	失業率	1 月			11.2%
3/11	7:00	経常収支(USD)	1 月	-7.30bn		-3.84bn
	7:00	鉱工業生産(前年比)	1 月	+8.4%		+14.4%
	7:00	期待インフレ率(12 ヶ月)	3 月			+24.83%

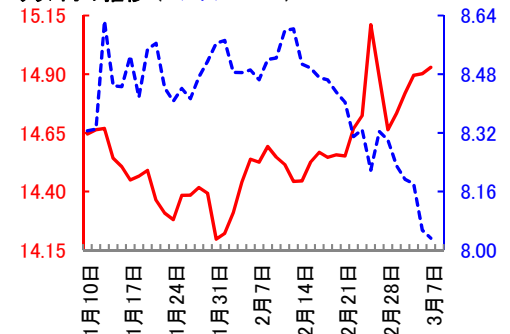
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRY の推移 (日足/ロンドン 7:00～17:00)



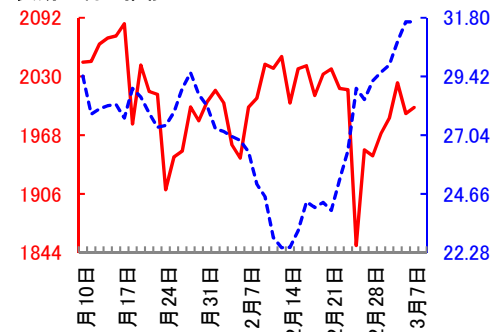
バスケット/リラの推移 (トルコ中銀公示)

リラ/円の推移 (ロンドン 17:00)



株式市場の推移 (ISE 100 種指数)

長期金利の推移 (5 年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1 週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q4	+9.1%
失業率	12 月	11.2%
消費者物価(前年比)	2 月	+54.44%
鉱工業生産(前年比)	12 月	+14.4%
小売売上高(前年比)	12 月	+15.5%
貿易収支(USD)	1 月	-10.26bn
経常収支(USD)	12 月	-3.84bn

(注 1) +2.50%予想に対して発表+4.44%であれば「倍近い」大幅上振れと言えようが、+52.50%予想に発表+54.44%は誤差の範囲内とも言えよう

(注 2) 対外的には主に米英と対内的には、ポーランド、ハンガリーなどと

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。